

# きれい 甲斐

No.41 FEBRUARY 2008

環境パートナーシップやまなしは、県民・事業者・行政のパートナーシップ（協働）のもと、団体間の連携や情報交換の場づくりなどを通じて、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的として様々な活動を行っています。環境保全に関する活動を積極的に行っている団体、個人のみなさまのご入会をお待ちしています。

## 環境パートナーシップやまなし

事務局 ● 〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1丁目6-1 山梨県循環型社会推進課内  
TEL.055-223-1506 FAX.055-223-1507 ✉ junkan@pref.yamanashi.lg.jp  
URL <http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/junkan/60200266375.html>



古紙配合率100%再生紙を使用しています

発行責任者 ● 広報専門部会長 神宮寺 聡

## 『ノーレジ袋キャンペーン』を行いました。

～マイバッグ持参で地球にやさしい買い物～

東山梨地域 環境パートナーシップ会議（事務局：峡東林務環境事務所内）

私たち東山梨地域環境パートナーシップ会議では、環境に配慮した行動や環境問題の解決に向けた活動が地域ぐるみで行われ、根付いていくよう実践的な活動を行っています。

具体的な活動としまして、ゴミ減量等の研修会の開催、河川水質調査、クリーンキャンペーン、ケナフの栽培などを行っています。今回は、今年度から実施した「ノーレジ袋キャンペーン」について紹介したいと思います。

ノーレジ袋キャンペーンは、平成20年1月18日（金）に、管内に店舗のある（株）オギノ（山梨店・春日居店・甲州店）の協力のもと店頭にて10時から11時30分までの間にゴミ減量に関するチラシを配り、アンケートに記入して頂いた人には、マイバッグ又はマイバスケットを差し上げるという内容で、レジ袋の減量に対する普及啓発を行いました。また、キャンペーンの主催者として、山梨県・山梨市・笛吹市・甲州市にも参加して頂きました。早朝の時間帯でもあり、買い物に来店する人も少なかった為、アンケートに記入してくれる人もいないかなどの不安もありましたが、山梨店63枚・春日居店70枚・甲州店84枚で合計217枚のアンケートが集まりました。

アンケートを集計したところ、買い物をする人の80%は女性であり、その内60%は60歳以上でした。マイバッグやマイバスケットを使用して買い物をしている人は61%もあり、その内、常に持ち歩いている人は23%、ときどき持ち歩く人は38%いました。また、ごみ減量化の手段としてレジ袋の有料化に賛成ですかとの問いには、80%の人が賛成しています。その理由として、資源の節約になる事やごみの減量になる事などがありました。一方、反対の人は7%いました。その理由としてごみを出す時などにレジ袋を再使用する必要がある事や、現状で無料配布されているレジ袋にお金を払うのは嫌だ等の意見がありました。そして、レジ袋を有料化してもいまままでおなじ店を利用したいと答えた人は83%いました。マイバッグやマイバスケットを使用している人も6割を占めていて、レジ袋の有料化に賛成している人は多い反面、レジ袋を使用して買い物をしている人の中には、有料化に反対している人もいました。この結果を、今後の活動に活かしていきたいと思えます。



今、世界では環境問題が深刻になっています。私たちは、今後も地道な活動を行い、1人でも多くの人達に環境問題について関心をもって頂けるよう、活動を続けていきたいと思っています。





# ストップ温暖化 「一村一品」大作戦全国大会2008 都留市の水力発電が金賞☆ (環境大臣賞)受賞



ストップ温暖化大作戦～CO2削減「一村一品プロジェクト」～は、環境省と都道府県地球温暖化防止活動推進センター、全国地球温暖化防止活動推進センターによる平成19年度から開始の3ヵ年事業です。

◆平成19年度温暖化対策「一村一品・知恵の環づくり」の環境省事業として、地域に根ざした温暖化対策をより一層推進するため、温暖化対策のシンボルとなる取組（一品）を掘り起こし、それを活用した温暖化対策の一体的な展開の構築と温暖化対策のムーブメントの創出を図るため、山梨県地球温暖化防止活動推進センターが中心となって、ストップ温暖化活動コンテスト山梨県大会を昨年11月18日に開催しました。

◆県大会に応募された18件の中から、都留市の家中川小水力市民発電所「元気くん1号」が山梨県代表として全国大会への出場権を獲得し、2月9日、10日に東京にて開催された全国大会でみごと「金賞」を受賞しました。都留市役所ならびに都留市民のみなさんおめでとうございます。

## 2008年2月9日、10日東京丸ビルホールにおいて 全国大会2008が開催されました

### ～家中川小水力市民発電所「元気くん1号」 都留市～

この大会は、環境省が主催し、全国の地球温暖化防止に対する活動の中で優れた取り組みに対して表彰を行うとともに、今後の普及・啓発を促す目的で始められた、環境甲子園とも言える大会です。総応募数1,074団体の中から県予選大会を経て代表となった47団体が、2月9日に東京都の丸ビルホールに一堂に会し、取り組み内容を競い合いました。

審査は、事前の書類審査に加え、当日のプレゼンテーションによるもので、パソコンを使用した発表や寸劇での紹介などの形式で行われ、都留市は、山梨県の新エネルギー戦略である「風（風力エネルギー）、林（バイオマスエネルギー）、火（太陽光エネルギー）、山（水力エネルギー）」をモチーフに、武田信玄、小山田信有、山本勘助らの信玄公まつりに使用する甲冑を身にまとい、紹介用のビデオに合わせて「家中川小水力発電所『元気くん1号』」の発表を行いました。その結果、みごと金賞を受賞し、鴨下一郎環境大臣から、賞状とトロフィーが授与されました。



審査員には「開運！なんでも鑑定団」でおなじみの中島誠之助氏や、環境をフィールドに多岐にわたる活躍をされているマエキタミヤコ氏など、多彩な顔ぶれで、大変盛り上がった大会でした。

受賞のポイントについて、審査委員長の中島誠之助氏から「山梨には山が多く、豊富な水がたくさんあるという地域の特性をうまく生かして地球温暖化防止に役立っている。また、市民の理解と協力の下に、非常に広がりを感じさせてくれる取り組みであり、これからの小水力発電の普及に大きく貢献できるもの」と、高い評価をいただきました。



# 砂漠植林サミットin中国

2008年5月15日～21日

～明日の地球のために子どもたちの未来のために地球に緑をのこします～

山梨県ボランティア協会 岡 尚志

中国内陸部の砂漠化や干ばつは、今や世界中の関心事である。地球陸部の25～30%と言われる砂漠化は地球温暖化問題と連動した重要課題であるが、地球規模の環境問題が叫ばれる中、今年中国で開催される北京五輪(オリンピック)にあわせて、「日中砂漠植林サミット」が行われることは時宜を得ている。

主催のNGO「日本沙漠緑化実践協会」は、環境問題に関心のある方の積極的な参加を募集している。

砂漠植林サミットが、中国内モンゴル自治区の恩格貝(ゴビ砂漠の一角)で開催される背景には、山梨県富士吉田市出身の故・遠山正瑛先生(日本沙漠緑化実践協会創始者、鳥取大学名誉教授、マグサイサイ賞受賞、富士吉田市名誉市民、内モンゴル・オールドス市名誉市民)が沙漠緑化の道を拓いた功績と民間による日中友好の成果がある。

遠山先生は、1989年に中国政府を相手に「砂漠開発は世界平和への道」と提唱し、1991年には自ら先頭に立って日本の植林ボランティアを組織し、「やればできる」の心意気で沙漠緑化に奔走した。遊牧の地に定着農業を興し、砂漠観光産業を開発した結果、今や人口約900人の村(当初は15人ほどの集落)が活気づいている。

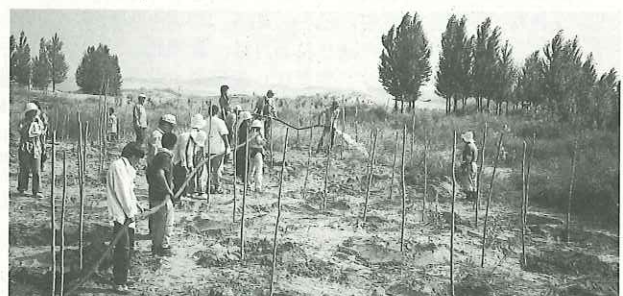
かつて不毛の地であった砂漠にポプラの森が広がり、雨水をせき止めた砂漠の湖にはモーターボートが走るなど緑のオアシスは、世界の砂漠化現象の危機を救うために植林の可能性を具現化し、未来への夢と希望を与えている。

日本沙漠緑化実践協会は、遠山先生の砂漠緑化への限りなき情熱に共鳴した日本人が参加して結成され、発足以来7千人以上のボランティアが中国の砂漠で汗を流し、3百万本以上のポプラを植林して緑化活動を行っ



てきた。砂漠緑化は、植樹をすればそれで完結するものではない。砂漠に穴を掘り、給水してポプラを植えた後、現地の中国人が継続してかん水する努力によって根を張り、芽を吹き、緑の枝葉が茂り、木々は生長して森となる。まさに、砂漠緑化は日中合同の作業によって成し遂げられている。

2003年2月、遠山先生は98歳で逝去された。今回の砂漠サミットは、遠山先生の偉業を讃えて遺志を継ぎ、その足跡に学び、危機的状況の砂漠化に対する警鐘とともに砂漠緑化の道を開拓するための確かなステップとすることを目的としている。



砂漠がオアシスに蘇りました

- ★サミット参加は、A:5日間(約16万円)、B:7日間(約18万円)と2コース。
- ★申込等詳細の問い合わせは、山梨県ボランティア協会(055-224-2941)。



# 『毎月10日、20日、30日はノーレジ袋の日!』です

## 山梨県ノーレジ袋推進連絡協議会

協議会では、ごみ減量化の一環としてレジ袋削減について検討を重ね、毎月10日、20日、30日のゼロのつく日を「ノーレジ袋の日」として普及啓発に取り組んできました。

また、2月1日には、年間一人当たり240枚も使用しているとされるレジ袋を有料化することがごみの減量化への有効な対策であるとし、事業者・消費者・行政等がお互いに連携協力し合い、次世代によりよい環境を引き継ぐことを目指し、有料化の宣言をまとめました。

これを契機に、地球環境への配慮という視点からレジ袋削減、マイバッグ・マイバスケットの持参が県民をあげての取り組みとなることを期待します。

～マイバッグ・マイバスケットの持参に、  
ご理解とご協力をお願いします。～

### スタッフ・レジ袋大作戦

毎月10日・20日・30日は  
ノーレジ袋の日です

地球にやさしい買い物ははじめませんか

●レジ袋を石油原料に換算すると

LLサイズ1枚 小さなお茶よこ 1杯分(約20ml)

●全国で1年間に使用されている 305億枚のレジ袋は...

2002のドラム缶 約300万本分(約60万t)



ノーレジ袋推進キャラクター「エコリー」

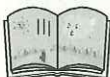
レジ袋を減らすことは、ちょっとした心がけで  
はじめられる、地球にやさしい活動です。

○実施主体 山梨県ノーレジ袋推進連絡協議会・山梨県

### ◆後援事業◆

環境パートナーシップやまなしでは、今年もさまざまな民間団体の活動に対して、後援を行いました。

- ♣平成 19年 9月 15日 「第12回子富士の会クリーン作戦」  
(主催：子富士の会、特定非営利活動法人山梨県ボランティア協会)
- ♣平成 19年 10月 7日 「第9回ライトダウン甲府バレー2007」  
(主催：ライトダウン甲府バレー実行委員会、山梨県立科学館)
- ♣平成 20年 1月 26日 「財団法人 やまなし環境財団設立10周年記念行事」  
(主催：財団法人 やまなし環境財団)
- ♣平成 20年 2月 「第31回ボランティア・NPO活動推進月間」  
(主催：山梨県、山梨県教育委員会、社会福祉法人山梨県社会福祉協議会、特定非営利活動法人山梨県ボランティア協会、社団法人青少年育成山梨県民会議、環境パートナーシップやまなし、財団法人やまなし文化学習協会、財団法人山梨県国際交流協会、社団法人日本青年会議所関東地区山梨ブロック協議会、市町村、郡・市町村社会福祉協議会)



## ♡ 今すぐ始められることがあります ♡

☆ 「リオの伝説のスピーチ」と呼ばれているスピーチを知っていますか ☆  
『あなたが世界を変える日』 著書：セヴァン・カリス＝スズキ



1992年6月。ブラジル、リオ・デ・ジャネイロ。環境と開発に関する国連会議（環境サミット）に集まった世界の指導者たちを前に、12歳の少女、セヴァン・スズキは語り始めました。  
～「どうやって直すのかわからないものを、これ以上こわすのはやめてください」  
居る政治家たちを前に、12歳の少女、セヴァン・スズキは訴えた。



### お知らせ

「きれいな甲斐」は送付方法を①郵送、②メール配信、③県ホームページよりダウンロードの3種類から選択できます。現在の送付方法から変更を希望される方は、事務局へご連絡ください。

環境パートナーシップやまなし事務局（県循環型社会推進課内）

TEL：055-223-1506/FAX：055-223-1507 E-mail：jurkan@pref.yamanashi.lg.jp

### ●投稿募集中

#### 【会員紹介コーナー】

①スペースはA5判程度で、原稿と写真等を入れて構成してください。②団体等の名称、所在地（事務局または事務所等）、連絡先を必ずお書きください。③内容は、活動紹介やPRなど自由です。④締め切りは特にありません。

#### 【行事予定】

○団体名、日時、場所、内容、申込み方法、連絡先等です。